

東国分中学校ブロック

第4回 義務教育学校の設置に関する検討委員会

令和2年9月2日（水）17：00～18：30
市川市立東国分中学校 家庭科室

第4回検討会の主な内容

- 義務教育学校の設置に関する検討の中間報告会について
- 併設型小・中学校について

1 委員長挨拶

2 報告

- (1) 中間報告に係る動画配信について
- (2) 中間報告会で実施したアンケートのまとめについて
- (3) 中間報告会での質疑・応答について
- (4) 教職員への説明会での質疑・応答について

3 協議

- (1) 併設型小学校・中学校について

4 その他

東国分中学校ブロック 第5回義務教育学校の設置に関する検討委員会の予定

- 日時：令和2年10月7日（水）17時00分から18時30分
- 場所：東国分中学校

東国分中学校ブロック 第6回義務教育学校の設置に関する検討委員会の予定

- 日時：令和2年11月4日（水）17時00分から18時30分
- 場所：東国分中学校

1 報告

(1) 中間報告に係る動画配信について

・配信した動画の視聴（約20分）

①小中一貫教育について

②併設型小学校・中学校について

(2) 中間報告会で実施したアンケートのまとめについて

○実施日時：7月30日（木） 第1部 15時00分～16時10分（4名）

第2部 18時00分～19時10分（3名）

○会場：曾谷公民館（第1・2研修室）

設問	回 答		
通学している学校	曾谷小学校 5	稲越小学校 2	東国分中学校 0
質問・意見	【曾谷小学校】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校になるということで、今通う子の親としては、大きな変化が無いことにほっとします。 ・東国分中には、部活動が少なく、魅力が無い中学校となっているが、5・6年の児童の参加できることで変化があるといい。 ・みんな違ってみんないいが認められる支援が受けられる学校であるように願う。 ・ゆっくりとした変化で、児童への負担もないことを望む。 ・子供や親の気軽にできる相談窓口が欲しい。 ・定期的にこのような説明会があると情報が聞けてありがたい。 ・早い段階で、PTAレベルの会合があっても良いと思います。 ・先生への負担が多いことへの不安がある ・上の子と下の子で違う環境になるのが気になります。 ・やはり校舎がどこに建つかが気になる。 ・平成30年生まれの子供がいるので、大きく関わる。慣れた頃にあっちに行ったり、こっちに行ったりになるのが心配。 ・教師の数をどれくらい増やすのが気になる。 ・今後も説明会はどれくらいあるのか。 ・気になることを見つけたらどこで聞けばいいのか。 ・デメリットも説明して欲しい。 ・曾谷小、東国分中の卒業生です。特に小学校には製作したものが残っているのですが、どのようになりますか。 		
	【稲越小学校】		
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なかつ具体的なことが良くわかりました。 ・新しい校舎のデザインにも期待しています。 ・この地域に生まれ、住み、誇れる学校にさせていただきたく、協力させていただきたいと思いますので、今後ともよろしく願います。 ・賛成します。ただし、小6のリーダー性の確保は重要な課題となる。 ・いじめに対する問題にも向き合って検討を進めていただけると有難いです。 ・もっと多くの地域の方に参加していただく方策もお考えいただきたいと思います。 ・公立学校は地域の学校です。最後は妥当性というところが大切なかもしれませんが、4人の出席では寂しいです。 		

(3) 中間報告会での質疑・応答について

<第1部> 15時00分から16時10分（4人）

出席者	事務局
○令和12年度までは、それぞれの学校でそれぞれの学習をやりながら、6年生になったら東国分中に行くというやり方で考えているのですか。	●6年生が東国分中に行くかどうかは、実際にスタートしてから、東国分中、曾谷小、稲越小の先生方が話し合って決めます。そういったことが来年度からできるという事です。
○先生方が中学校から小学校に来たりすることを、先ずは始めようという事ですか。	●中学校の先生が小学校に来て教科担任制を行ったり、例えば6年生が週3日間、中学校に通ったりといったことが、来年度からできるようになるという事です。こういった取組をするかは、来年度に入ってから、学校の中で決めて頂きます。
○一体型校舎の場所や、想定される児童・生徒数はどうなるのでしょうか。	●どこに一体型校舎をつくるかは、これから検討委員会で検討を進めることとなっています。曾谷小、東国分中、稲越小、または新しい場所の4つの選択肢が現在はあると思います。12年度に供用開始です。

	と、7年度から校舎の基本構想をつくり、その後設計、工事になります。児童生徒数の推計は、令和12年度に、曾谷小は12学級、稲越小は7学級、東国分中は8学級程度になるとみています。人数は710人ほどですので、小中一貫校としては適した規模になると考えています。
○検討委員会には、東国分中と曾谷小と稲越小の保護者は入っているのですか。東国分中は中国分小や国分小からも入ってきますが、そちらの保護者も検討委員会に入っているのですか。	●検討委員会は、各学校の学校運営協議会の代表の方が入っていますが、保護者の代表（PTA会長）も入っています。中国分小と国分小の保護者の皆様には、昨年度の説明会で説明をしています。今回は、併設型の対象校となる東国分中、曾谷小、稲越小の保護者の皆様に説明し、併設型の方向が決まれば、中国分小と国分小の保護者の皆様にも説明をします。令和12年度までには学区の問題も解決して、どこの学校からどこの学校へ行くのかといった整理をして進めることとしています。
○他の小学校から一貫校の中学1年生になると、それこそ中1ギャップになると思います。今の保護者は、「令和12年ならうちの子はいないからいいか」というように、意見は出ないと思います。学区については、広い範囲の一部に新校舎となると、すごく遠くから行かなくてはいけないようになります。併設型で教育が行き渡るようになった方が良いのではないかというようにもなります。12年までには子供たちの成長も変わってくると思うので、これからの様子を見てもらいたいと思います。	●そのようにしてまいります。
○今の小学校、中学校は、学区外でも選べたりします。一貫校に行くと、ちょっと合わないなと思って他の小学校に通うとか、タイミングが良ければ中学校から行くといった事が可能でしょうか。そういったことも増えてくるのではないかと思います。	●公立の学校ですから、その点是对応出来ます。指定学校変更の制度についても、学区と合わせて整理をしていく必要があると思っていますが、基本的には色々な事情があつて学校を替わる事は可能であると考えています。
○曾谷小学校には特別支援学級がないので、一体型校舎になるのであれば、そういう面でも通いやすくなってくれたら良いと思います。友人から「言葉の勉強」が出来る学校もあると聞いたので、そういったこともメリットとして考えてもらいたいです。	●特別支援学級のことについては、昨年度の説明会でも、保護者アンケートでもご意見を頂いております。特別支援教育の一貫教育も含めて検討を進めてまいります。

<第2部> 18時00分から19時10分（3名）

出席者	事務局
○12月には、一体型校舎をどこにするかは未定という話でした。今回、曾谷小の建て替えに合わせてという話がありましたが、曾谷小の場所を小中一貫校にするという方向で進んでいるのでしょうか。	●一体型校舎の設置場所については、今後の検討課題となっています。曾谷小学校、稲越小学校、東国分中学校、そして他の新しい場所の4つの可能性の中で、検討をしていくことになると思います。
○場所は未定という事ですか。	●一体型校舎にするかどうかの検討が未だ進んでい

	<p>ません。最終的に一つの学校にしていこうとなった時点で、設置場所の検討になっていくと思います。</p>
<p>○令和12年度が供用開始という予定になっていますが、前倒しや、後ろに行くといった可能性はあるのですか。</p>	<p>●現在の建て替え計画に合わせて説明をしていますので、今後、前に来たり後ろに行ったりということが、全くないとは言えません。今回のコロナのようなこともありますし、併設型の効果がどれだけ出ているのかという事もあります。</p>
<p>○一貫校になることによって、小・中の子供たちの関りがあるということですが、そのために、週にどのくらいの時間帯が設けられているのでしょうか。</p>	<p>●塩浜学園では、入学式や始業式などの学校行事は合同でやっていますが、それ以外については、その時々で学習の流れに合わせて、先生方が話し合いながら進めています。</p>
<p>○1週間のうちに、関りはそんなに多くはないという感じですか。</p>	<p>●塩浜学園は、現在は隣接型で校舎が離れているので、なかなか進んでいないところもあります。来月、一体型の校舎になりましたら、そういったところも進んでくると思います。</p>
<p>○すべての行事を行うことが難しくなるというのは、例えばどういうことですか。</p>	<p>●例えば運動会・体育祭を別々にやっていたときは、競技の数やお子さんの出番などが確保されていましたが、一つになることによって、今まで3つの競技に出ていたものが2つになるなどの縮小はあると思います。</p>
<p>○9年制になることによって卒業式も9年後にやるということですが、そうなった時に小学校6年生で受験をする場合はどうなるのですか。</p>	<p>●法律上は、小学校段階を前期課程、中学校段階を後期課程としており、6年生が終わったところで、前期課程修了証書という卒業証書と同等の証書もらいます。塩浜学園では、前期課程修了証書授与式を卒業式のような形でやっており、他の公立中学校や私立中学校へ行かれるお子さんもいます。</p>
<p>○卒業ではなく、証書での修了という事ですか。</p>	<p>●前期課程修了証書は、小学校の課程を修了したということと同等になります。</p>
<p>○今後、併設型小中学校を挟んで、一貫校にしていこうという事ですか。</p>	<p>●義務教育学校にする前に、まずは今の学校形態のまま、小中一貫教育を進めようという提案です。</p>
<p>○一貫校では、別の小学校、中学校で習う事と、ギャップは生まれるのか、気になるところです。先ほどの説明で、メリットについては教えていただいたのですが、デメリットについては、実際どういうものが存在するのか教えてください。</p>	<p>●学習については、基本的には他の小・中学校と変わりません。前期課程は小学校の学習指導要領、後期課程は中学校の学習指導要領を準用することになっています。但し、教育課程の特例によって、学習の前倒しや入れ替えをしたときには、他の小・中学校と学習の違いが出てくる可能性はあります。デメリットについては、実感ですが、制度自体には、子供たちの成長にとってデメリットになるものはないと思っています。小中一貫教育の効果がないという場合はありますが、現在の小・中学校の制度より悪くなることはないと思います。但し学校運営上の課題はたくさんあり、例えば先生方が忙しくなることによって、子供たちにどのような影響があるのかという事については、きちんと精査をしていかなければいけないと思っています。</p>

<p>○親の関わり方の変化というのは、存在するのですか。例えば PTA が実際どうなるのか、そういうところはどのようなのですか。</p>	<p>●塩浜学園は、PTA は一つになっています。一つにするために 2 年ぐらいかけて、小中の保護者同士が話し合いました。組織が違っていたり、集金方法が違っていたりしたので、しっかりと話し合っ一つの組織にしていきました。</p>
<p>○併設型の場合は、校長先生が 3 人いるので、親の組織も 3 つですか。</p>	<p>●併設型の場合は PTA 組織も全く変わりません。現在のままという事になります。</p>
<p>○現在、小学校から中学校に上がるにあたって、越境制度があります。例えば国分小の子が、今は三中に行ったり東国分中に行ったりしていますが、一貫校が人気になって、みんながそちらに行きたいとなった時に、定員があるので、本当の地域の人たちが優先で入れて、越境の人は抽選になったり、入れなかったりということがあるのでしょうか。学区についてはどうなるのでしょうか。</p>	<p>●現在の越境のシステムは、学校施設に余裕のある場合に入れる形になっていると思います。東国分中ブロックは学区が複雑になっており、中国分小の子や国分小の子が東国分中に行ったり、曾谷小の子が三中に行ったりという事があります。現在、市内全体の学区について、学区の審議会に諮問をしているところです。そこで答申をいただいてから、東国分中ブロックの学区について、具体的に整理を進めたいと考えています。併設型でしたら学区の問題も越境の問題も今まで通りですので、まずはそこから始めようという提案になっています。</p>
<p>○併設型で実施する場合は、6 年生がリーダーとして今まで通りですが、ここまで一貫を目指していくのであれば、小 6 のリーダー性がそれほどまでに必要なかと思いますが、12 歳という区切りに何か特別なものがあるのであれば別ですが、逆にそこでリーダーであったために、中一ギャップにつながっている可能性も十分にあると思います。4-5 制で、上が 5 年生ということをやっても良いでしょうし、4-3-2 制で、6 年生を間に挟むというような考え方もあります。9 年で育てたいならば、9 年で結果が出ればよいという大きなビジョンで捉えて、あまり途中のリーダー性というところにこだわりすぎなくても良いと思います。それから、教師の多忙化というところと言うと、多忙なために、教員があそこの学校に行きたくないというようなこともあるかも知れません。以前東国分中が荒れた時期には、先生方が忌み嫌って手を挙げませんでした。しかし、落ち着いてきたころには南の方の先生がこぞって手を挙げて異動してきて、これはあくまでも噂のレベルで、ちょっと乱暴な言い方ですけども、結果的に落ち着いた学校に、おとなしいけれどもあまり力のない、力量のない先生が集まり、また学校の荒れに変わってしまったという話もあります。そういうことを心配すれば、子どもにとってのメリットが、大人にとってのデメリット、結果的に子供のデメリットにつながりはないかという危惧があります。それと併設型では、一貫だからというところで、「9 年間」に気持ちが行くために、各学校の校長先生がそれぞれの個性やリーダーシップを発揮しきれずに、本来、自分の小学校なり中学校なりでやりたかったことが出来なくなってしまうのか、また、一貫に引きずられて、学校運営がうまくいかなかったり、ジレンマを感じてやりにくさにつながったりしないかと言う心配を感じました。</p>	

(4) 教職員への説明での質疑・応答について

① 7月20日(月) 曾谷小学校

質問	回答
国分小学校はどうするのか。 三中と東国分中の学区はどうするのか。	学校の建替えに合わせて行うことを考えているため、曾谷小学校の建替えが予定されている令和12年度が見直しの時期となる。 学区に関する審議会に諮問し、学区の見直しをしている。

② 7月21日(火) 稲越小学校

質問	回答
行事等は統一されるのか。	3校で話し合っで決める。統一されるものと個別で行うものを検討することになる。
令和3年度から併設型小学校・中学校がスタートするとあるが、5-4制や4-3-2制など、3校で話し合っでいくのか。 市として案はあるのか。	市としての案はあるが、3校で話し合っで決めていく。 市としては、制度を整えていく。
イメージがつかない。 ひばり祭のような、各学校独自の行事は引き続きできるのか。	できる。 3校で話し合っできめていく。
スタートは、何を持っでスタートとするのか。	教育委員会の規則を改定することで、スタートとなる。 令和3年度のスタートに向けて、令和2年度中に決めることは、 ①3校での教育目標の決定(学校と地域とで) ②通称名をつけるか、つけないかの決定 義務教育学校とするかの判断は、令和6年度までに判断する。

4月から各学校の先生方が集まっで話し合っでいくのか。	まずは、校長先生が話し合っで、次に各部会等を開いて話し合っでいく形になる。
いつから東国分中の生徒たちに授業を教えるようになるのか。	これからの話し合っで決まる。 併任することができるので、稲越小と曾谷小でも授業が可能となる。

③ 8月19日(水) 東国分中学校

質問	回答
令和3年から5年にモデル校として開始する予定とあるが、そのスタートはいつだれが決めるのか。	検討委員会で合意が図られれば、教育委員会会議で審議していただく。その後、議決をもらい、学校管理規則を改定することによって、令和3年度よりスタートできる。
以前の資料では義務教育学校の設置の際は、教職員の負担を軽減するため、教職員人数の加配などを行うとあったが、それは併設型小・中学校でも同じなのか。	同じである。教職員の加配や他の支援も、教育委員会が主体となっで行っていく。
4-3-2で行う場合、今の東国分中に小学生がくると教室が足りなかつたり、エアコンのない教室をあてがうと教育環境が悪くなる恐れがあるが、その辺りについてはどう対応するのか。	4-3-2に決まっでいるわけではないので、3校の校長で協議していくことになる。その上で、エアコンなどの整備が必要であれば整備していく予定である。
6年生が中学校校舎にいと、委員会活動では5年生がリーダーとなり、6年生が中学生	中間報告会の意見の中で、「小・中の9年間で子供を育てていくとなると、6年生のリーダー性にはこだわらなくていいのではないかと、9年間の中で、どの段階で、どの性を育てるのかを決めなければならない。

2 協議

併設型小学校・中学校について

< 中間報告会で出された意見の論点整理 >

併設型小学校・中学校への期待について	<ul style="list-style-type: none">・大きな変化がないことに安心感がある・ゆっくりとした変化で児童生徒への負担軽減を期待・誇れる学校にするために協力したい・6年生のリーダー性の確保が重要・9年間でリーダー性を育てる際、どの学年で育てるかの検討が必要・5、6年生の部活動への参加に期待・特別支援教育でも通いやすい学校となることに期待
併設型小学校・中学校への課題について	<ul style="list-style-type: none">・一貫教育と各小中学校の独自性の間で学校経営にやりずらさが生じるのではないか・小中一貫教育の実施に伴う多忙化等の課題が解決されなければ、教員にとってのデメリットが児童生徒のデメリットにつながる心配がある
併設型小学校・中学校の具体的な運営について	<ul style="list-style-type: none">・6年生から東国分中学校へ行くなど、具体的な運営方法を早く知らせて欲しい

<資料> 令和2年8月21日(金) 毎日新聞

小学校も教科担

22年度導入 5・6年生

小中学校や高校の教育のあり方を検討している中央教育審議会の特別部会は20日、2022年度から小学

骨子案のポイント

- 2022年度をめぐり小学校高学年で教科担任制を本格導入
- 導入対象教科として、英語・算数・理科と例示
- 教科担任制を拡大し、教育の質向上や教員の働き方改革につなげる
- 小学校、中学校両方で教えやすくする教員免許制度を整備

5、6年生で「教科担任制」を導入する案を示した。専門性の高い教員が教えることで授業の質を高めることに加え、教員の負担軽減につなげる狙いもある。対象の教科として、小学5、6年で20年度から正式教科になった英語のほか理科と算数を例示した。

教科担任制は特定の教科を専門に担当する教員が複数の学級で教える仕組みで、中学校や高校で導入ま